

もし会計がビジネスの言語であるとするならば、  
井尻雄士はその言語の名弁士である。

## 真の指導者・会計学の巨匠

Visit: [www.tepper.cmu.edu/ijiri](http://www.tepper.cmu.edu/ijiri)

井尻教授が三式会計モデルの着想について語る

10代より最近の Tepper School 退職  
に至るまで、Ijiri は会計の研究領域を  
近年の会計史上にみる誰よりも大きく  
押し広げた。

井尻雄士 (Yuji Ijiri, the R.M. Trueblood University Professor 会計・経済学名誉教授) は、学究生涯のほぼ全てをカーネギーメロン大学の大学院経営工学部 (GSIA) と Tepper School of Business で学び且つ教えた。彼は 1963 年にカーネギーメロンで博士号を得た後、1963 年からスタンフォードに行き、1967 年にカーネギーメロンに正教授として戻る。Tepper School の同僚である Jonathan Glover (the Richard M. Cyert Professor 経営・経済・会計学教授) は「20 世紀の会計学では二人の名前が思い浮かぶ。一人は Yuji であり、もう一人は Bill Payton である。しかし 20 世紀後半について言えば、それは Yuji である」と語る。「Yuji は会計学の過渡期にいた。彼は、他の人が手を付けなかった、異なる学際間の考えを結び合わせることをやった。会計学の地位を高めるといふ稀にみることを彼は成し遂げた。人々は会計学者のモデルとして彼を見ている。Ijiri の学問領域を示す例として、その最後の発刊論文では量子物理と三式会計の関係を探究している。しかし、それ以前の研究でも、彼は異なる学理論を関係付けることで会計学の新しい視点を発展させてきた。また、そのような見方考え方を彼の学生たちにも伝えてきた。

Ijiri の博士課程の学生で現在 Yale School 経営学部並びに経済学部の教授である Shyam Sunder (the James Fell Frank Professor 会計・経済・財政学教授) は次のように語る。「彼は会計学の教授を越えた更なる人である」「彼がよく

語っていたことに、君たちが財務諸表に見るものは、実はもろもろの力学からの所産であり、切迫した経営者により生み出されたものがある。単なる会計のコースでは、この経済学的・心理学的アプローチを君たちは期待することをできなかったものである。彼が垣根を設けずにやってきたそのことに私は大変興味をそそられた。」

8人のノーベル賞受賞者を輩出している Tepper School は、意思決定の基礎として定量化モデルに注視して 1940 年代後半に新しいビジネススクールとして創設された。確かなことは、その Tepper School において、ビジネス史に影響を持つ人材の存在はごく当たり前のことである。例えば、Ijiri の論文指導をした Bill Cooper (今版の追悼頁を参照)；Ijiri が Firm Size の波及的な研究でも共作したノーベル賞受賞の Herb Simon；ビジネススクールの学部長で後に大学の総長になった Richard Cyert；James March や Allan Melzer、その他多くの人材の中にあっても、Ijiri の足跡は截然としている。

「退職までの在任期間中ずっと、彼は深甚なる思索家であり、ここの会計グループの知的リーダーとして勤めた。しかし、それでは十分に言い尽くせていない。彼はまた Tepper School の知的リーダーでもあった」 - BOB DAMMON

財政経済学の教授で Tepper School の現学部長でもある Robert Dammon は、「退職までの在任期間中ずっと、彼は深甚なる思索家であり、ここの会計グループの知的リーダーとして勤めた。しかし、それでは十分に言い尽くせていない。彼はまた Tepper School の知的リーダーでもあった」と語る。「Yuji がやったような長き間、リーダーシップ的地位に留まる人はほとんどいない。」Dammon は Simon や Ijiri のような巨匠がいる教授陣に加わるべく Tepper School にやってきたその時の畏敬の念と喜びの気持ちを思い出し「なんと説明して良いのか、それは何か特別な世界に居るような信じがたい思考の感覚である。Yuji の名声はわが校の多数のノーベル賞受賞者と同じレベルにあり、そのことが重要な研究の地としてのわが校の名声を高め、今も我々に影響を与え続けている。

Ijiri の当校への影響は、言い方を変えれば、我われが達成に向けて取り組むべきスタンダードを示してきた。彼は、ノーベル賞受賞の他の教授と同様に、達成に向けて前進を試みる規範を我われに示している。この期待を背負うこと

は多大なプレッシャーである。しかし、これらの思いを抱かずに大きな事は成し遂げることは出来ない。雄士がやってきたことは我われにそのような基準を持たせることであった。

#### 独創性に富む功績；三式会計

Ijiri は若い時から会計の偉大さに運命づけられてきたように思える。会計殿堂はオハイオ州立大学の Fisher College of Business に置かれている。その会計殿堂入りをした彼の紹介文献によれば、Ijiri は 1935 年に日本の神戸市で生れ、未だ高校生であった頃にベーカリーを営む父の經理の仕事を手伝っていた。大学の授業を受けることもなく、高校卒業前の 1952 年に公認会計士の一次試験に臨むことが許され合格している。その後京都の短大夜間部に学び、1953 年に公認会計士二次試験に合格、3 年間の実務実習を終えると（同時に法学部の学士号を得て）、会計殿堂の記録によれば、日本における最年少である 21 歳で公認会計士の資格を取得した。

「Yuji 以前にも複式から三式会計への拡張の試みをした人はいた。しかし、彼のが複式から三式への論理的な解明をした最初のものであった。それは二次元から三次元へ移行するようなものである。」 - JONATHAN GLOVER

会計の基礎にあるのは複式簿記であり、それは全てのビジネス取引は会計帳簿の少なくとも二つの勘定科目に係ることを定めている。この複式から三式簿記への拡張は決定的な Ijiri の功績である。利速会計とも三式会計とも知られているが、それは単に変化を見るだけでなく、アナリストに会社の損益計算書への変化の度合いを測定する手段を提供している。

「若い頃から、彼は既に複式から三式への拡張の考えを持っていた。」と数々の Ijiri との共著論文を手がけた Glover は語る。「Yuji 以前にも複式から三式会計への拡張の試みをした人はいた。しかし、彼のものが複式から三式への論理的な解明をした最初のものであった。

それは二次元から三次元へ移行するようなものである。彼の考えのいくつかは情報システムやマーケティングの設計する人々に衝撃を与えてきた。」Ijiri はまた会計学のもっとも継続的な議論でもある取得資産をいかに評価するか、過去の取得原価か現在の市場価格か、についても重要な関心を置いてきた。Glover が言うには、Ijiri が取得原価方式の擁護論者の重鎮の一人であり、深慮

ある論説者である。元 GSIA の学長の Robert Kaplan は、Ijiri の取得原価擁護論について思いおこすことがある。「Ijiri が常々言っていることは、この資産に実際いくら支払ったのかが重要であり、そのことについて経営者と株主との間で説明責任を果たすことが重要なのである。」と Kaplan が語る。

Ijiri は彼の研究を現実の世界に当てはめてみることもやった。Ijiri はピッツバーグに本社を置く当時世界最大のエネルギー会社であったガルフ石油に週一回のアドバイザーとして仕事をしていた。Kaplan は、カーネギーメロンに採用されたのち Ijiri と共に仕事をするようになった当時を次のように回想する。「ガルフ石油は Ijiri の見識と創造性を評価し、Ijiri は複雑な企業がより良く機能する業務運用を見直し、会計情報がいかにその機能を強化するかを示した。」退職が間近になった時できえも、彼は会計研究を前進させてきた。彼の直近の論文では、予測手法を改善するとともにサーベンス・オクスリー法に準拠すべき内部統制を向上させる道を探って、量子コンピューティングと位相幾何学と会計との関係を探究している。Glover は「Bill Cooper がこの論文を雄士の論文の中でも最高の作品と思っていた」ことを語り、「私の感覚では、彼は 75 歳ではなくあたかも 25 歳かのように行動していることをいつも不思議に思っている。彼はいつでも何事にも興味を見つける独自の好奇心を持っていた」とも話している。

#### 大学の進歩発展への奉職

彼の先駆的な研究の加えて、Ijiri はその勤める大学の育成にも責務を負った。その功績は決して小さくないと 1977 から 1983 年まで学部長を務めた Kaplan が語っている。

「かつてある人がビジネススクールの学部長になることは、それはあなたが 16 匹の子犬を首紐なしに同じ方向に進ませるようなものと話していた。Yuji は今までに何かを要求することはほとんどなかった。ところが、私が何か彼に頼むと彼は断ることをほとんどしなかった。それどころか大変念入りに対処してくれた。私が良い教授を得たいと思い描いても出来なかったことを彼はやってのけた。私は彼が大学への桁外れの忠誠心を持っていたと思う。それは学部長として、もっとも価値を置くものである。」

Ilker Baybars はカーネギーメロン大学カタール校の学部長であり George Leland Bach Chair と Tepper School の名誉副学部長でもある。彼は Ijiri と共に大学の運営面で緊密に仕事をし、Ijiri が大学の進む方向の戦略計画に大変な貢献をしたことを語っている。

「彼は個人的にも彼の時間と頭脳と助言を私のために心を広く接してくれた。彼は数多くの委員会に出ていつでも相談に応じてくれた。多くの人々がこ

の地に来るが、大学の運用管理面で貢献する人はほとんどいない。その多くの人を劣っていると思っているのではないが、Yujiはこの実務的なやり方で長期にわたり貢献してくれた。」

ビジネススクールの枠を超えた University Professor の彼の呼称に認められるように、Dammon は Ijiri の貢献について次のように述べている。「彼の影響力と名声はほとんど全世界に知れている。教授陣における彼の存在があって、わが校の会計グループに有力な個性的な人材を採用することができた。彼の存在なくしてはその様にできなかったことであろう。」

### 学生達のメンター

世界クラスの学識や大学の管理面での貢献といった Yuji Ijiri の多彩な顔の中には、学生や同僚への献身がある。事実、衝撃的なことは、Ijiri を知る人々と話すとき、彼の感化が人生にもっとも有意義であったと彼らがしばしば語ることである。たとえば、Kaplan がカーネギーメロンにやってきた経緯を次のように語っている。

コーネルのオペレーションリサーチの博士課程を卒業後、数々の大学で面接を受けた。カーネギーメロン・ビジネススクールの学部長が Kaplan のやってきたことを評価していた。だが、大学が必要としていたのは会計の先生であった。カーネギーメロンに来て会計を教えませんかと聞かれて、Kaplan は過去に会計のコースを一つしか取っていなかったことを忘えると、大学は「それは問題ないよ、Yuji が教材を選ぶのであなたは Yuji といっしょになって教えて下さい」と答えた。

初年度、Kaplan はその教材の中に減価償却の会計数学に関する不備を見つけ、雄士と共著でそれについて論文を書いた。『一緒に教え始めて一年半の間に、四つの論文を書きいずれも出版された。そのうちの統計的測定に関する論文が賞を得たと記憶している。事実、私はオペレーションリサーチから会計分野にシフトしたのだが、それは全て雄士と一緒に教えたことに起因する。彼は物事を違った見方で考えている。明らかなことに、それが私の人生を変えた。私は「会計には十分な富饒がある。このことが永い間私を夢中にさせてくれたと思う。結果、この 43 年が経っていた。』

「カーネギーメロンはずばぬけた教授陣と学生とに恵まれた正に学びの「小庭園」である。ただ、何かそれ以上のものにも思える。その庭は人を成長させる特別なものを持っているように思える」 — YUJI IJIRI

人が子供をみてその親を測ることができるとするなら、もしかして、生徒をみてその先生を評価することができることになる。もしそうであるなら、エール大学の Sunder は Ijiri が遺したものについて次のように回想する。

「次のように説明したい。彼が何かを書くときや何かをするときには一瞬たりとも公表・公開することを目標にしていたとは思えない。全くその逆であった。雄士は着想によって動かされていた。彼にとってはパズルや矛盾を解くことであって、それらがどこから依頼されたかは問題ではなかったのである。

誰かを喜ばせようと彼が研究してきたのでは決してないと私は思っている。彼自身の喜びのために研究をしてきたのである。そして、そのことを大変楽しいとする人が他にどれだけいるかを知り驚きである。私も彼の示した道筋を同じように追っかけてきた。自らの道を進む、自らの内より来たるやりたいことをやる、自らの好奇心を従い、自身のパズルを見つけそれを解く — これらは私が貰った彼からの最大の贈物であると思う。私が困難な状況に立ち入ったとき、それが個人的なことであれ学究的なことであれ、私は自分自身に問いかける — Yuji だったらどうするだろう。彼はまさに私にとってのヒーローなのである。

井尻教授は現在オハイオ州オバリンに住み、倫子夫人(写真上)、娘の梨沙、柚美に囲まれて退職後の日々を楽しんでいる。

訳：井尻 晴久